

## 集落の現況と集落住民及び他出者アンケート

椎葉村瀧春山集落

瀬戸内町知之浦集落

瀬戸内町阿多地集落

## 目次

1. 瀧春山集落概要	1
1.1. 集落の位置と特徴	1
1.2. 人口・世帯数	1
1.3. 交通	2
1.4. 観光	3
1.5. 瀧春山集落の教育環境	4
1.6. 瀧春山集落の生活	4
1.7. 瀧春山集落の産業	5
1.8. 瀧春山集落の祭事等	5
2. 知之浦集落概要	7
2.1. 位置	7
2.2. 集落の特徴	7
2.3. 3. 人口・世帯数	7
2.4. 交通	8
2.5. 生活	8
2.6. 産業	8
2.7. 祭事等	9
3. 阿多地集落概要	10
3.1. 位置	10
3.2. 集落の特徴	10
3.3. 人口・世帯数	10
3.4. 交通	11
3.5. 生活	11
3.6. 産業	11
3.7. 祭事等	12
4. 住民アンケート集計の概要	13
5. 住民アンケート集計	17
5.1. 集落（回答者）の属性	17
5.1.1. アンケートの回答状況	17
5.1.2. 集落の人口構成	17
5.2. 回答者の年齢構成	19
5.3. 後継者の実態	19
5.3.1. 後継者の状況	19
5.3.2. 後継者の居住地	20
5.3.3. 帰省・連絡の状況	20
5.4. 世帯主の他出経験	21
5.5. PC保有台数	22
5.6. 災害時の避難状況	22

---

5.7.	WS 参加意向 .....	22
5.8.	集落の共同活動の重要性 .....	23
5.9.	居住継続意志 .....	24
5.10.	居住継続上の不安要因 .....	25
5.10.1.	居住継続上の不安に感じる要因上位 3 位 .....	25
5.10.2.	居住継続上の不安に感じる要因 .....	26
5.11.	居住継続上で必要な項目 .....	27
5.11.1.	居住継続上最も必要な項目 .....	27
5.11.2.	居住継続上で必要な項目 .....	27
5.12.	他出家族との連絡 .....	28
5.13.	集落外からの訪問 .....	29
5.14.	資源 .....	29
5.14.1.	自然資源 .....	29
5.14.2.	その他資源 .....	31
5.14.3.	自慢の料理 .....	32
5.14.4.	伝統芸能・特技・手技 .....	34
5.15.	元気づくりへの取り組み .....	36
5.16.	取り組み内容 .....	37
5.17.	取り組み後の居住継続意志 .....	38
5.18.	住民アンケートから見た集落元気づくりの可能性 .....	39

---

1. 瀧春山集落概要

1.1. 集落の位置と特徴

瀧春山集落は、宮崎県北西部の東臼杵郡椎葉村の中央部にあり、上椎葉ダムによる人造湖である日向椎葉湖に面する山地に位置する。村の中心集落である鶴富屋敷からは車で1時間の距離に在る。

瀧春山、松木、横野、上福良の4集落で大字下福良に属する尾八重地区を形成している。

地区内の小学校が閉校し、瀧春山集落の若年層は子どもの教育のために、同じ地区内の横野集落に流出している。

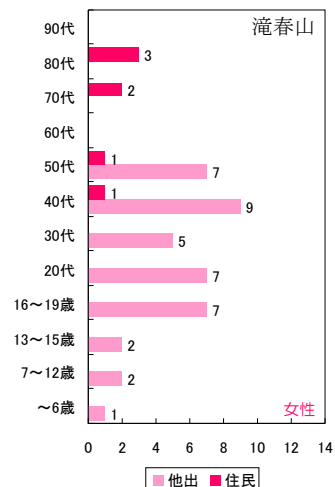
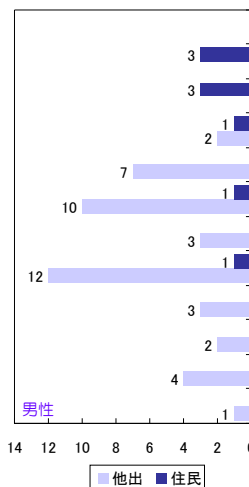
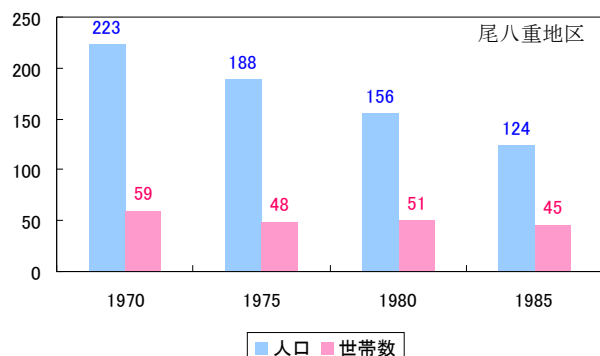
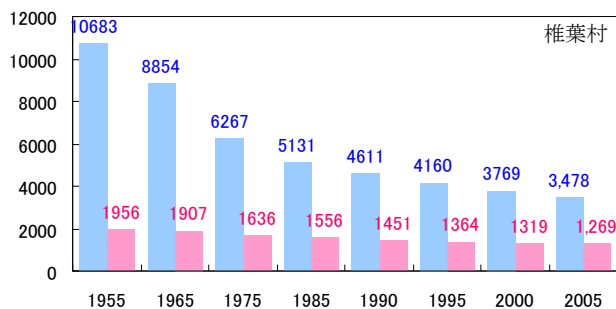


1.2. 人口・世帯数

椎葉村の人口は、昭和30（1955）年には世帯数1,956世帯、人口10,683人であったが、高度経済成長時代に急激に人口が減少し、昭和60（1985）年には世帯数1,556世帯、人口5,131人となり人口が半減した。その後も人口は穏やかな減少傾向にあり、平成16（2004）年には世帯数1,272世帯、人口3,529人となった。

尾八重地区においても、昭和45（1970）年には59世帯、人口223人であったが、その後人口減少が続き、昭和60（1985）年には45世帯、人口124名となった。

現在の瀧春山集落における他出者を含めた集落人口は16名で、他出者を含めると100名である。世帯数は7世帯であり、村内他出は3世帯となっている。



1.3. 交通

椎葉村に公共交通機関が運行を開始したのは、昭和8年に上椎葉と富高（現日向市）間の民営定期バス運行を端緒とする。当時は1日数回運行し、所要時間は4時間ぐらいであった。

①民間バス

下表のように、昭和58年までに国鉄や宮崎交通により村内に6路線が開設されたが、自家用車の普及と過疎化の進行により利用者が減少したため、5路線が廃止された。また、続行路線も過疎バスとして県より助成金を受けている。

路線名	運行開始	廃止年
上椎葉線	昭和8年	続行
中山線	昭和40年	平成18年
仲塔線	昭和41年	昭和63年
尾前線	昭和31年	昭和63年
川の口線	昭和58年	昭和63年
大河内線	昭和27年	昭和61年

②村営バス

民間バスの廃止に際し、生活路線として運行続行を求める村民の要望により、村営バスが民間バス路線を引き継ぐ形で、廃止路線代替バスとして6路線で運行している。

路線名	区 間	
尾向線	追手納	上椎
小崎線	川の口	上椎葉
仲塔線	財木	上椎葉
	本屋敷	上椎葉
大河内線	下の原	山之口(西米良村)
	下の原	上椎葉
間柏原線	辻	上椎葉
	下福良	上椎葉
不土野線	不土野上	上椎葉
松尾線	小河内	上椎葉
	栗の尾	上椎葉
	畑鳥の巣	上椎葉
	小原	上椎葉

③瀧春山集落へのバス

瀧春山集落へは隔週金曜にコミュニティバスが往復1便、椎葉村の中心である上椎葉から瀧春山集落の集会所施設前まで運行している。



村営バス車庫



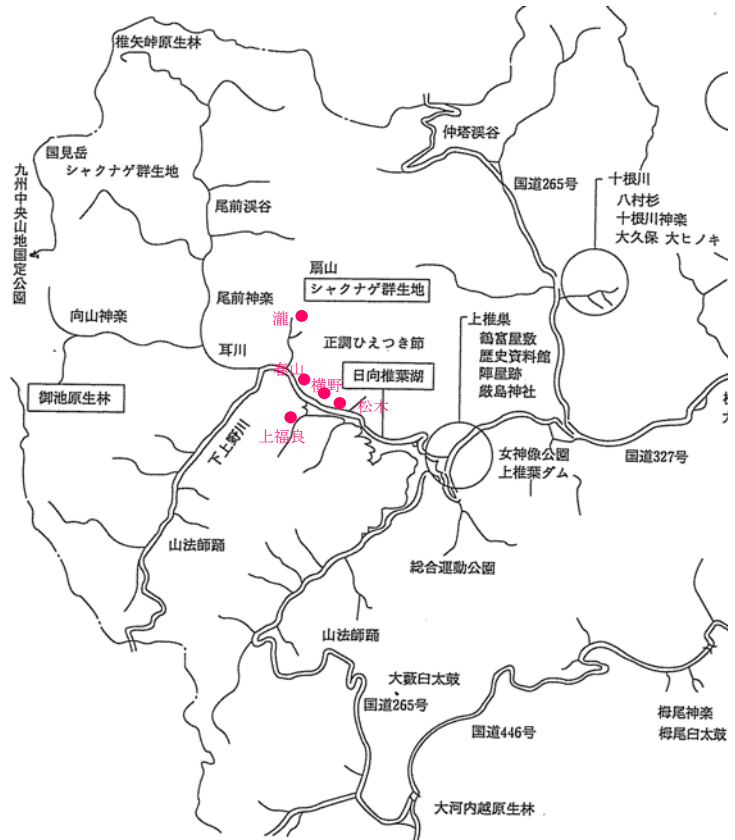
瀧春山集落バス停

1.4. 観光

①日向椎葉湖

上椎葉村の代表的な観光資源として、宮本武蔵等の小説で有名な作家“吉川英治”が命名した日向椎葉湖がある。同湖は、九州電力が、5年予の歳月と延人員500万人の労力を動員し、130億円をこえる巨費を投じて、昭和30年に我が国初のアーチ式ダムとして耳川に完成した上椎葉ダムによる人造湖であり、付設する上椎葉発電所は最大出力90,000キロワットの電力を生む。

また、同湖は九州中央山地国定公園にも指定され、ヤマメやニジマスが釣れる釣りスポットでもある。湖岸は春の新緑や秋の紅葉が美しく、毎年7月下旬には花火が打ち上げられる椎葉夏祭りが開かれる。



椎葉村の観光資源分布

②鶴富屋敷

日向椎葉湖近くには平家の末裔鶴富姫と源氏の武将那須大八郎の悲恋の舞台ともなった「鶴富屋敷」(那須家住宅)がある。建物は藤原期の寝殿造りで、椎葉の代表的な家屋である。この家の建立は明確な資料がないが、建築技術等から約300年前と思われる。昭和31年に国指定重要文化財に指定された。

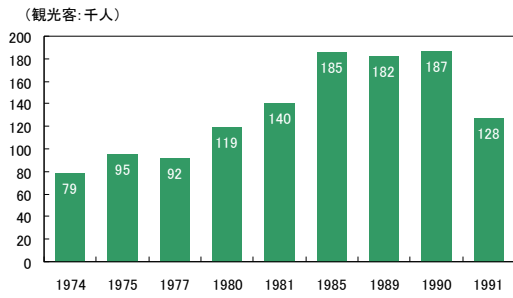
③ひえつきの里キャンプ場

日向椎葉湖の南側斜面に、椎葉の豊かな森林資源と人々の交流の場として、施設面積1haのキャンプ場が平成4年に整備された。木造コテージが5棟あり、キャンプ場と合わせて125人を収容でき、広場や林道、プール等も完備されている。

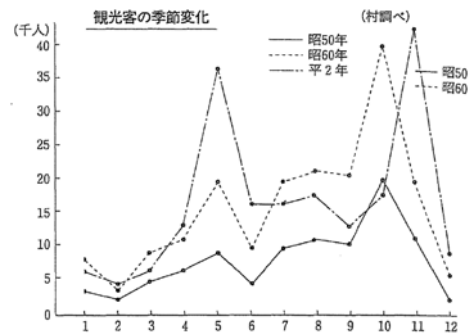
④椎葉村の観光入込の動向

昭和55(1980)年頃から観光客数が10万人を超え、平成2(1990)年には約19万人が椎葉村を訪れているが、日帰り客が約8割を占め、宿泊客は少ない。

季節的变化を見ると、昭和50年には秋が多かったが、平成2年には春と秋が多くなっている。



椎葉村の観光客推移



### ⑤ 椎葉村の観光政策

主要産業である農林業の不振と、立地条件の悪さに起因する他産業の誘致が困難であることから、椎葉村では自然環境や歴史的文化遺産、農林水産物等を生かした観光産業への期待が大きく、昭和59年には「椎葉村観光基本計画」が策定される等、早い時期から観光振興が行われている。

### 1.5. 瀧春山集落の教育環境

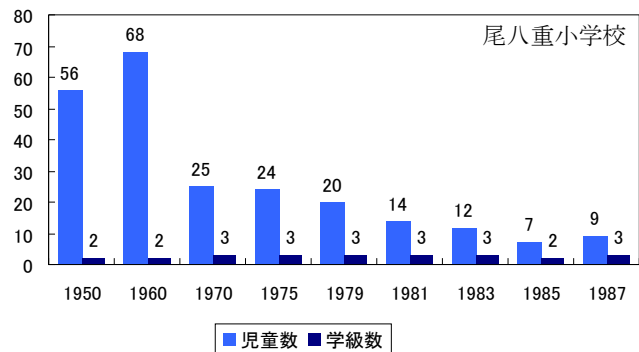
瀧春山集落が属する尾八重地区には、明治22年に仮校舎により桑弓野小学校分校場が設置され、明治24年には尾八重尋常小学校が開校した。

戦後、尾八重小学校と改称され、昭和23年から複式学級で運営された。昭和29年に上椎葉ダム建設のため校舎が移転し、昭和40年に校歌・校旗を制定、昭和44年に完全給食を開始、昭和54年にはプールも設置された。

尾八重小学校は昭和35(1960)年には児童数68名を数えたが、昭和62(1987)年には児童数9名となり、生徒数減少のため休校となり児童は椎葉小学校へ転入となった。翌昭和63年には閉校となり、地域教育機関としての歴史の幕を閉じた。



尾八重小学校



### 1.6. 瀧春山集落の生活

生活用品などは、デイサービスやコミュニティバスで上椎葉まで行き購入するほか、生協が実施している食品の宅配サービスを利用している。医療施設は上椎葉の病院まで通院している。

携帯電話は不通地域であり、ブロードバンドは整備されていない。

テレビも受信可能だが、電波状態は悪い。集落内に集会所があるが、今では寄り合いもなく、



## 瀧春山集落概要

集会所は利用されていない。集落内の連絡は、無人販売所を運営する女性たちによって定期的に行われている。



集会所

### 1.7. 瀧春山集落の産業

以前は農林業が集落の中心産業であったが、現在はほとんどの住民が年金により生活し、集落中1世帯のみが農業を営んでいる。

また、20年前から集落住民が共同で無人販売所を運営している。



無人販売所



瀧からの清流

### 1.8. 瀧春山集落の祭事等

#### ①ひえつき節

庭の山椒の木、鳴る鈴かけてよ」と始まる『ひえつき節』は、日本の代表的民謡として全国に知られており、山深い椎葉の里の労働歌として、さらには、鶴富姫と那須大八郎の悲恋の物語として古くから歌い継がれている。椎葉村では、この優れた民謡の伝承と伝播を図るため、毎年『ひえつき節』日本一大会を開催している。

瀧春山集落が属する尾八重地区には「ひえつき節保存会」があり、20名程度が活動を行っており、昭和49年には村指定文化財に指定された。



ひえつき節の碑

ひえつき節(稗つきの労働歌)  
庭のさんしゅうの木 鳴る鈴かけて  
鈴の鳴る時や 出しておじゃれ  
鈴の鳴る時や 何と出て出ましょ  
駒に水くりよと 言うて出ましょ  
和様平家の公達ながら  
おどま源氏の那須の末  
(はやし)  
・コライサノサツサ  
・ねずみさえこと(五斗)つく 三斗五升なに  
かい搗いてかやせ  
・臼の端や ござしき 杵まくら かみさし  
ぼつきりちゃんとしもた  
・臼よし杵よし搗き手は尚よし むけぬでな  
るかい  
ハーツイタツイタツイタ



②<sup>まとい</sup>的射

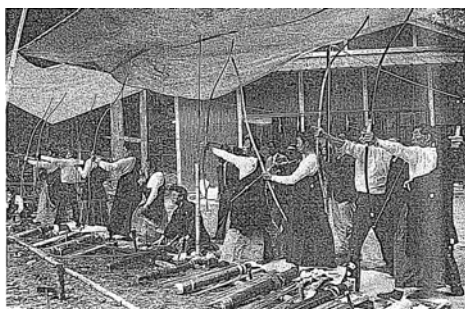
弓弦に矢をつがえて前方の的を射ることを椎葉では「マトイ」と呼び、季節に関係なく行う場合と、春祭り神事の一環として実施される場合とがある。

季節に関係なく行う場合は、家に不幸が続く時の厄払い、出産時、葬儀の時に行われ、春祭りの神事は、山の神の祭日や春分の日等に集落の神官宅等で行われる。

瀧春山集落では集落住民で春祭りを実施し的射を行っていたが、高齢化による射手の減少から6年前に途絶えている。



的射の的



参考：不土野の的射

的射ふし（的射をする時に後で見ている者が歌う）

的は金の的 弓と矢は白木弓

放す間の たのもしやヨイホーホンニ

的を射るなら 手もとをしゃんと

那須の与一の 末じゃものヨイホーホンニ

うちの親爺殿は 的射て泊まる

あとの女子どまあ 泣いて待つヨイホーホンニ

泣いて待つよりや 行てなと見やれ

## 知之浦集落概要

### 2. 知之浦集落概要

#### 2.1. 位置

奄美諸島にある鹿児島県大島郡瀬戸内町の加計呂麻島の半島に位置し、加計呂麻島と奄美大島間にある大島海峡に面する集落。

町制施行前、知之浦は瀬武の小字。

大島と加計呂麻島の間には2航路、1日各4往復の町営フェリーが運航している。



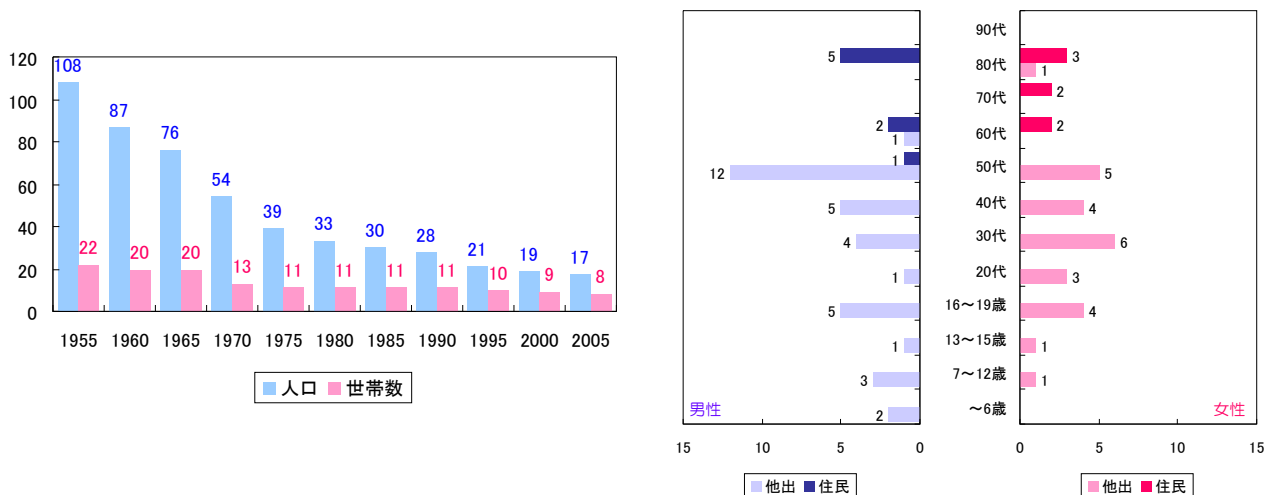
#### 2.2. 集落の特徴

伝統的な生業は半農半漁であり、以前は段々畑によるサトウキビによる黒糖づくりが盛んに行われていた。

現在、集落の2/3が高齢者であり、多くの世帯は年金受給が中心の暮らしとなっている。

#### 2.3. 3. 人口・世帯数

昭和30年には世帯数22世帯、人口108人であったが、昭和50年には世帯数11世帯、人口39人となり、現在は世帯数6世帯、人口15人となっている。



### 2.4. 交通

集落は加計呂麻島を回る巡回バスの経路に含まれていないが、民間定期船が集落棧橋に発着する。定期船は加計呂麻島の北部の集落である“芝”と瀬戸内町の中心地である大島の“古仁屋”を一日一往復し、日曜は欠航となっている。海上タクシーは、古仁屋～瀬相関が片道大人350円、古仁屋～生間間が片道大人250円（1艘チャーター2500円）となっている。

自家用船を保有している世帯が多く、通年穏やかな海峡を渡り奄美大島側へ移動できる。

また、大島との加計呂麻島との間には海上タクシーも運行しており、渡航の自由度は高い。

### 2.5. 生活

生活用品は町の中心地である大島の古仁屋で購入し、医療は月に1～2度巡回診療がある。緊急時には、同じ島内の徳州会診療所を利用するか、古仁屋からの救急車を利用。

携帯電話は通じず、インターネットもダイヤルアップのみであり、ブロードバンドも未開通である。

テレビも受信可能だが、電波状態は悪い。

### 2.6. 産業

加計呂麻島と大島間の大島海峡の加計呂麻島側では真珠養殖が盛んであり、集落近隣の入江に田崎真珠株の養殖場があるが、知之浦集落からは自治会長1名のみが働いている。

## 知之浦集落概要

### 2.7. 祭事等

アラセツ（旧暦8月15日）に集会場のあるミャー（広場）で豊年祭・敬老会があり、集落を他出した人が手伝いにくる。

旧暦九月には集落中心のムリヤマで祭りがある。ムリヤマはトーノヤマ（唐の山）と呼ばれていたが、昭和初期に「守山」に改めたとされる。ムリヤマの入り口には「鎮守」の鳥居が立ち、山頂のマツの根元に石を囲ったご神体が祭られている。



知之浦集落の風景



他出者の支援により建立された鳥居と土俵



古仁屋からの定期船が訪れる船着場



集落の中心にある松の大木



集会施設



真珠の養殖



### 3. 阿多地集落概要

#### 3.1. 位置

奄美諸島にある鹿児島県大島郡瀬戸内町の加計呂麻島の南西部の外海に位置する集落。  
大島と加計呂麻島の間には2航路、1日各4往復の町営フェリーが運航している。

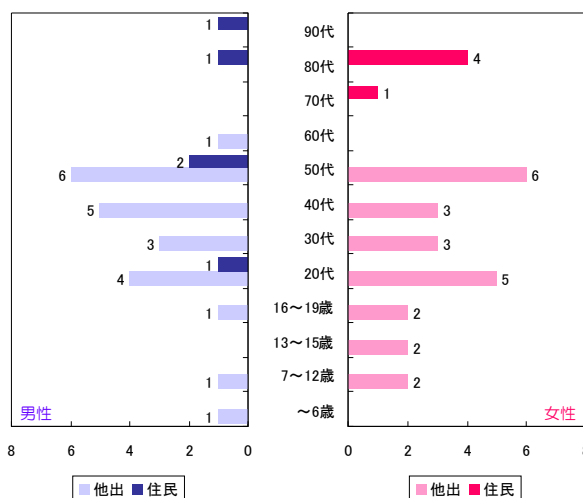
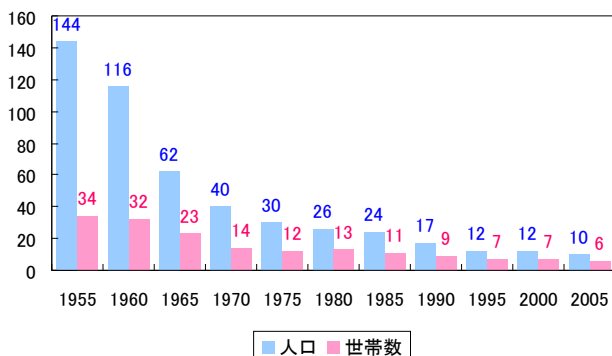


#### 3.2. 集落の特徴

江戸時代の嘉永・安政時代頃に農耕地の開拓で開かれたと伝えられる集落。  
伝統的な生業は半農半漁であり、かつては鰹漁が盛んであり、農業はサトウキビ中心。  
現在、多くの世帯は年金受給が中心の暮らしとなっているが、海のきれいさに惹かれた1ター  
ンが2世帯居住している。

#### 3.3. 人口・世帯数

昭和30年には世帯数34世帯、人口144人であったが、昭和50年には世帯数12世帯、人  
口30人となり、現在は世帯数5世帯、人口10人となっている。



### 3.4. 交通

集落の中心と古仁屋へのフェリーが出航する瀬相を結ぶ路線バスが1日4本運行されている。



### 3.5. 生活

移動販売業者が週に2～3回巡回し、食料品を中心に販売。定期的に町営フェリーで古仁屋に買い出しに出かける住民もいる。

医療は2週間に1度巡回診療がある。巡回医療は名瀬の県立病院と連携しており、緊急時には即時対応できる体制となっている。

携帯電話は通じず、インターネットもダイヤルアップのみであり、ブロードバンドも未開通である。

テレビも受信可能だが、電波状態は悪い。

以前は高潮の被害に悩まされたが、現在は防波堤の整備により解消された。集落外へ通じる道路も2系統あり、災害時に孤立することは少ない。

### 3.6. 産業

年金受給が中心の暮らしとなっているが、古仁屋の建設業者に通う人が1名在住。また別途1ターナーが1名おり、瀬相で自動車整備工場を開業。



3.7. 祭事等

旧暦八月十五日（新暦 2009 年 10 月 3 日）前後の日曜日に敬老会・豊年祭が集落の公民館前広場であり、須子茂小中の児童生徒や古仁屋阿多地会のメンバーらが参加する。



阿多地集落の全景



阿多地集落に面する海



伝統的な阿屋



集会施設



移動販売車



阿多地集落の町並み

## 4. 住民アンケート集計の概要

### 1. 集落属性

#### 1.1. アンケートの回答状況

- ・ 椎葉村瀧春山集落：約 81%
- ・ 瀬戸内町知之浦集落：80%
- ・ 瀬戸内町阿多地集落：50%

#### 1.2. 集落の人口構成

- ・ 瀧春山集落の人口：16 名、他出者を含めると 100 名、世帯数：7 世帯、高齢化率約 56%
- ・ 知之浦集落の人口：15 名、他出者を含めて 74 名、世帯数：6 世帯、高齢化率 60%
- ・ 阿多地集落の人口：10 名、他出者を含めて 55 名、世帯数：5 世帯、高齢化率 40%
- ・ 3 集落とも他出者を含む構成人口は 40～50 代が多いが、そのほとんどが他出

#### 1.3. 回答者の年齢構成

- ・ 3 集落とも 75 歳以上の年齢が約 60%以上

#### 1.4. 後継者の実態

- ・ 3 集落とも、ほぼ全世帯で後継者が存在するが、7 割以上の世帯で後継者と別居

#### 1.5. 後継者の居住地

- ・ 瀧春山集落：村内・外それぞれに分布
- ・ 知之浦集落：半分以上の後継者が町内に居住
- ・ 阿多地集落：後継者の全てが町外に居住

#### 1.6. 後継者の帰省・連絡の状況

- ・ 近隣居住の後継者は、毎週または月に 2～3 回程度の頻繁な帰省
- ・ 遠方居住の後継者は年に 1 度など、帰省の頻度は低い
- ・ 連絡状況は、月に 1 回以上は必ず連絡。週に 1 回連絡も半数
- ・ 家業の手伝い状況は、近隣居住の後継者が定期的、遠方居住者はほとんど無い

#### 1.7. 世帯主の他出経験

- ・ 瀧春山集落：約 70%にあたる 5 名の世帯主が他出経験無
- ・ 知之浦集落：約 70%にあたる 5 名が他出経験有
- ・ 阿多地集落：回答世帯主全員に他出経験

#### 1.5. PC 保有台数

- ・ 3 集落を通じて、瀧春山集落の 1 世帯のみ

#### 1.9. 災害時の避難状況

- ・ 3 集落とも「避難しない、避難したことが無い」と回答

#### 1.10. 集落の共同活動の重要性

- ・ 3 集落に共通する重要共同活動①：「集落道の草刈などの共同作業」、「用水路の清掃などの共同作業」、「集会所・広場等の維持管理」などの集落の共有資産管理活動

- ・ 3 集落に共通する重要共同活動②「集落内での葬儀の実施」、「伝統芸能の継承活動」などの冠婚葬祭に関わる活動
- ・ 3 集落に共通する重要共同活動③：「集落内の寄り合いや話し合いの活性化」、「他の集落との連携」、「他出家族・親族とのきずな強化」、「行政と一緒に取り組む地域づくり活動」などの住民協同体制に関わる活動
- ・ 3 集落に共通する重要共同活動④：「訪問介護や宅兵弁当などのサービス受け入れ」、「住民の「足の便」の確保」等の生活支援活動
- ・ 瀧春山集落のみの重要共同活動：「荒廃農地の維持管理」、「農作業の手間がえ・結い」「集落共有の山林・牧野の共同作業」、「直売活動や交流活動の取り組み」
- ・ 3 集落が共通して重要としない共同活動：「外部からの支援受け入れ」

## 2.居住意思継続

- ・ 瀧春山集落・知之浦集落：「今後とも住み続けたい」
- ・ 阿多地集落：「状況によっては離れざるを得ない」が 40%

## 3.居住継続上の不安要因

### 3.1.居住継続上不安に感じる要因上位 3 位

- ・ 3 集落に共通：「医療施設が遠い」
- ・ 知之浦集落と阿多地集落に共通：「近くに働く場がない」

### 3.2.居住継続上不安に感じる要因

- ・ 3 集落に共通：「医療施設が遠い」、「共同作業の営み」
- ・ 3 集落に共通して不安を感じない要因：「隣近所の付き合いの減少」、「災害時の避難活動」、「日常の移動手段」、「預貯金の出し入れ」

## 4.居住継続上で必要な項目

### 居住継続上最も必要な項目

- ・ 3 集落に共通：「集落内の相互扶助」

### 居住継続上で必要な項目

- ・ 3 集落に共通：「集落内の相互扶助」、「国や自治体の支援・協力」、「他出者の協力」

## 5.他出家族との連絡

- ・ 3 集落に共通する他出家族との連絡をとる状況：「集落内の冠婚葬祭」

## 6.集落外からの訪問

- ・ 瀧春山集落はヘルパー、行政、農協等が 2 月に 1 度以上定期訪問しているが、知之浦集落と阿多地集落は友人や仕事の同僚が年に 1 ～ 2 度訪問するのみ

## 7.自然資源

- ・ 瀧春山集落：山桜、瀧、杉林、檜林、山村の風景、山の紅葉等、山の自然資源。
- ・ 知之浦集落：松の大木、海等、海辺の自然資源。
- ・ 阿多地集落：海水浴場、海に沈む夕日等海辺の自然資源。

## 8.その他資源

- ・ 3集落共通：空き家
- ・ 知之浦集落には、島津時代からの神社、都会に出た人の健康を祈る新設の神社。

## 9.自慢の料理

- ・ 3集落とも多数あり
- ・ 瀧春山集落：味噌漬、山菜、川のり、タケノコ、こんにゃく等。
- ・ 知之浦集落：烏賊や鰯等の薄塩漬けの冷凍、鰹・鮪、ボタン鍋、マンゴー等
- ・ 阿多地集落：黒豚料理、味噌に鰹、豚を入れた料理等

## 10.伝統芸能・特技・手技

- ・ 3集落とも固有のものがあるが、滅びつつある
- ・ 瀧春山集落：つづら織、石積み、ひえつぎ節（伝統芸能）、農林業の技術等。
- ・ 知之浦集落：8月踊り（伝統芸能）、真珠貝への挿核技術等
- ・ 阿多地集落：8月踊り（伝統芸能）、豊年祭（伝統芸能）、盆踊り（伝統芸能）等

## 11.元気づくりへの取り組み

- ・ 瀧春山集落・阿多地集落：多くの回答者が「集落内での話し合い」、「周辺集落との協力」を望んでいる
- ・ 知之浦集落：「取り組む気は無い」が約80%

## 12.取り組み内容

- ・ 3集落とも意欲的に取り組んでいる回答者が存在

## 13.取り組み後の居住継続意思

- ・ 瀧春山集落：75%が「住み続けたい」
- ・ 知之浦集落：約83%が「住み続けたい」
- ・ 阿多地集落：60%が「住み続けたい」、40%は「状況によっては離れざるをえない」

## 14.住民アンケートから見た集落元気づくりの可能性

- ・ 瀧春山集落：近隣居住の後継者と協力し、集落資源を魅力アップして、都市交流に

よる集落元気づくり

- 知之浦集落：集落外の同じ町内に居住する後継者を中心に集落を外から支援する集落元気づくり。また、真珠の挿核技術を生かした新たな集落製品づくりの可能性検討。
- 阿多地集落：綺麗な海を生かした I ターン者の獲得や、既存 I ターン者のネットワークと宿泊可能な集落集会所を生かした短期滞在者の獲得による集落元気づくり。

## 5. 住民アンケート集計

### 5.1. 集落（回答者）の属性

#### 5.1.1. アンケートの回答状況

アンケートの回答状況は、椎葉村瀧春山集落で約 81%、瀬戸内町知之浦集落で 80%、瀬戸内町阿多地集落で 50%となっている。

	瀧春山集落	知之浦集落	阿多地集落
住民数	16	15	10
回答者数	13	12	5
世帯数	7	8	7
回答世帯数	7	7	5
回答率（住民ベース）	81.2%	80%	50%

#### 5.1.2. 集落の人口構成

集落の人口構成と他出者の状況を把握するために人口ピラミッドを作成した。その結果、瀧春山集落の人口は 16 名、他出者を含めると 100 名、知之浦集落の人口は 15 名、他出者を含めて 74 名 となり、阿多地集落の人口は 10 名、他出者を含めて 55 名となる。

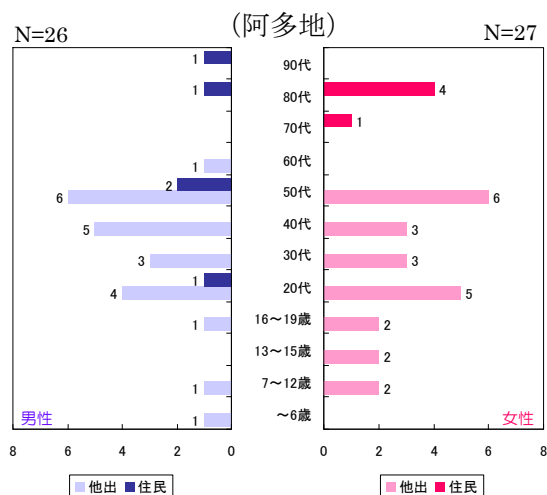
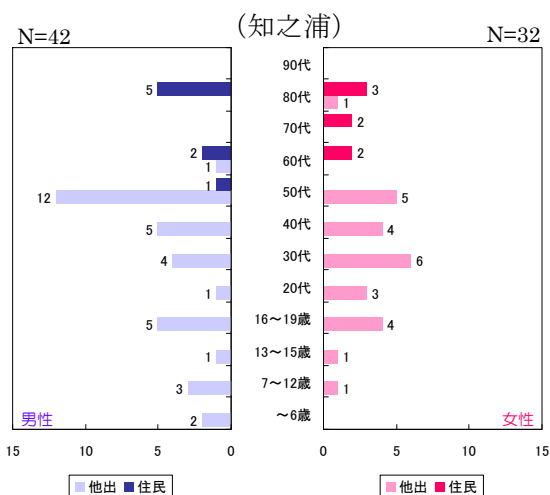
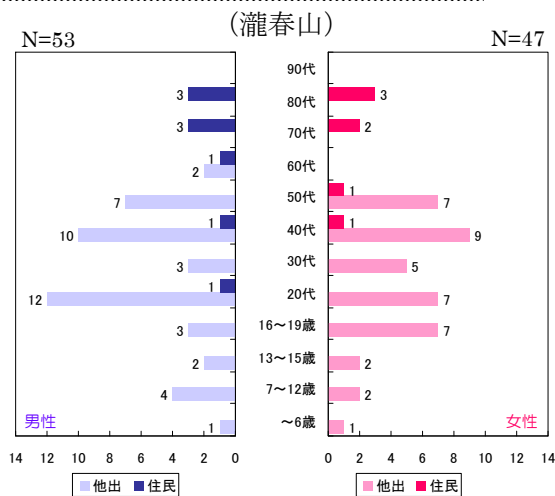
また、どの集落も他出者を含む構成人口は 40~50 代が多いが、そのほとんどが他出している状況である。

各集落の高齢化率は瀧春山集落が約 56%、知之浦集落が 60%、阿多地集落が 40%となっている。

	瀧春山	知之浦	阿多地
65 歳以上	11(11)	12(13)	7(7)
人口	16(100)	15(74)	10(55)
高齢化率	68.8% (11.0%)	80.0% (17.6%)	70.0% (12.7%)

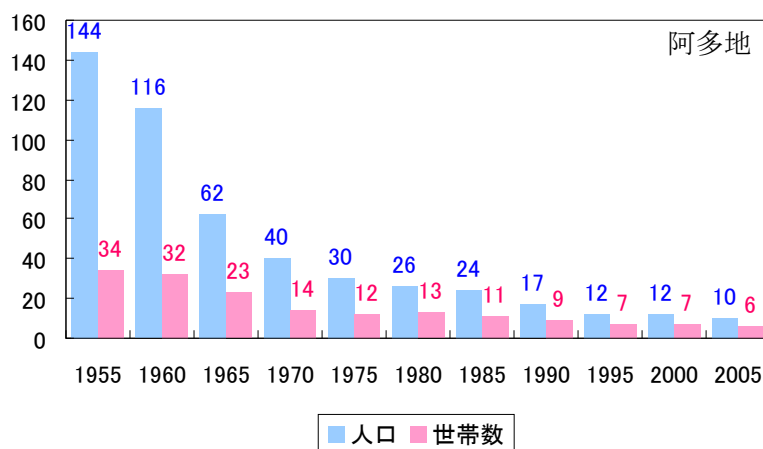
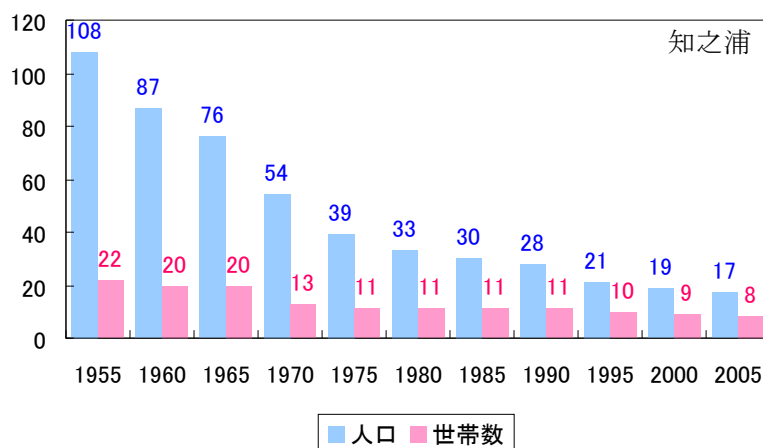
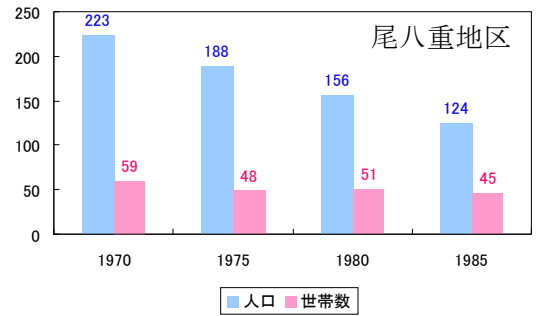
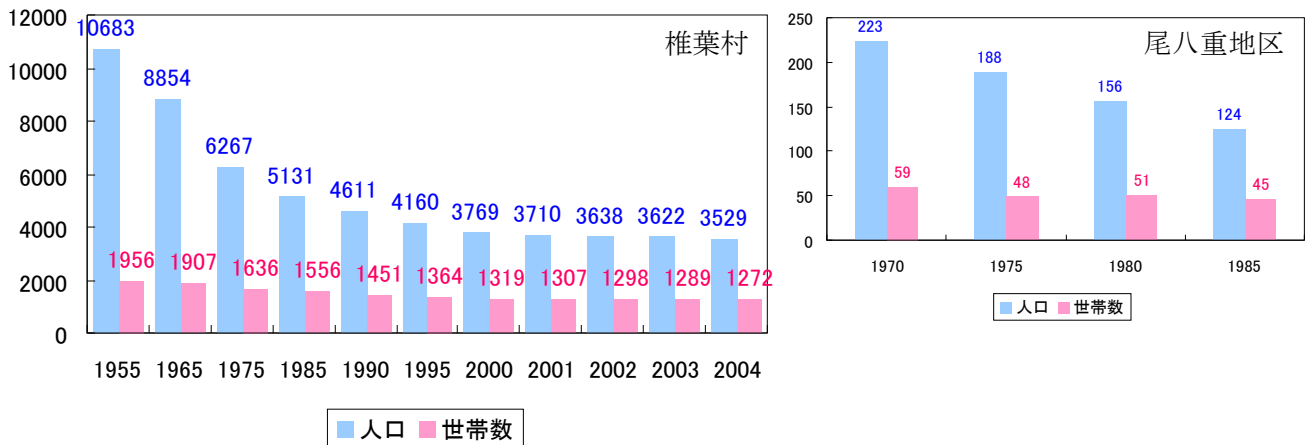
※（）内は他出者含む結果

※聞き取り調査の結果を示す



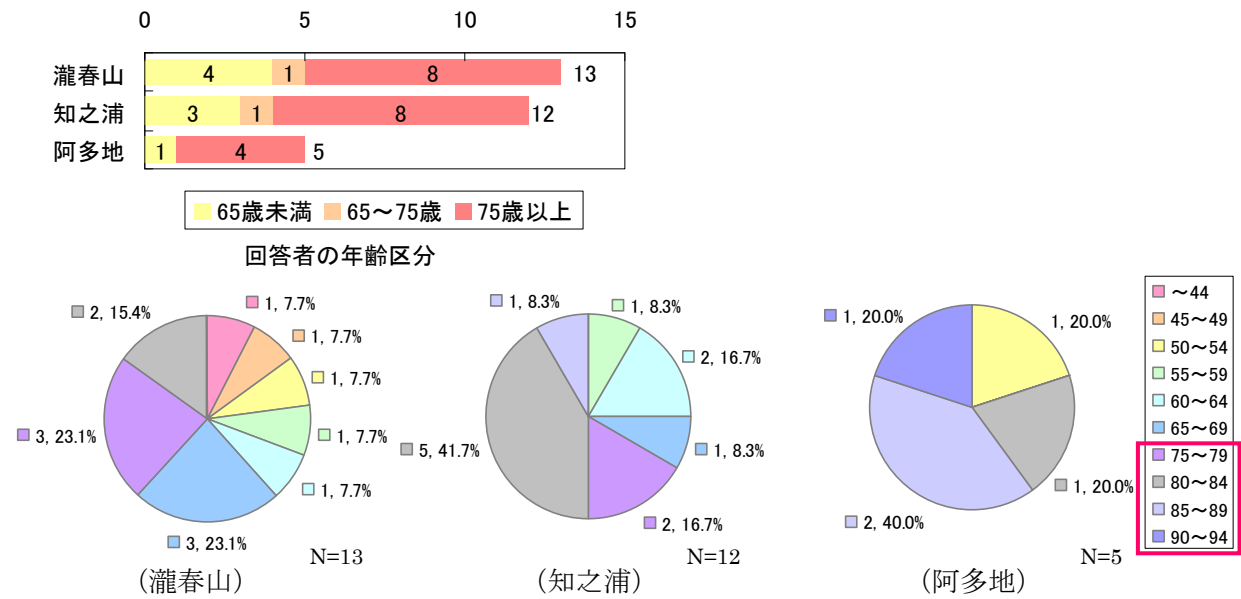


知之浦集落と阿多地集落では、昭和 30 年（1955 年）まで集落世帯数が 20 世帯を超えていたが、昭和 30 年代後半～40（1965）年代にかけて世帯数が減少し、平成 10（1998）年前後から 10 世帯未満となった。人口も同様に、昭和 30 年まで 100 人を超えていたのが、昭和 40 年代後半には 50 人を切り、平成 10 年前後から 20 人未満となっている。



## 5.2. 回答者の年齢構成

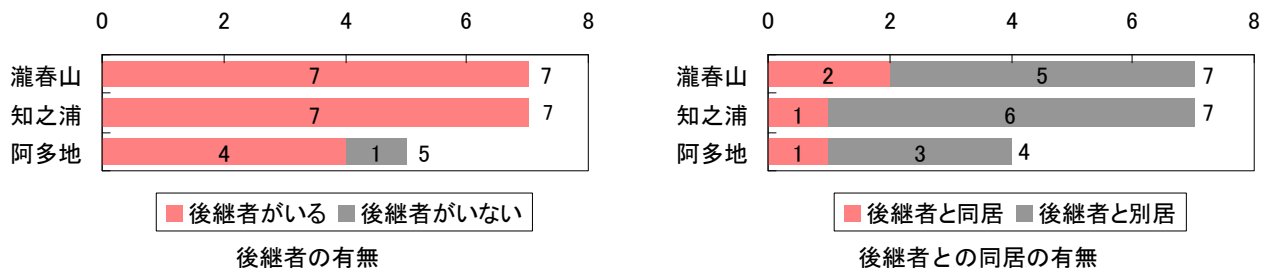
回答者の年齢構成は、各集落とも 75歳以上の年齢が約60%以上を占めている。



## 5.3. 後継者の実態

### 5.3.1. 後継者の状況

各集落の後継者の状況は、ほぼ全世帯で後継者が存在しているが、7割以上の世帯で後継者と別居している。

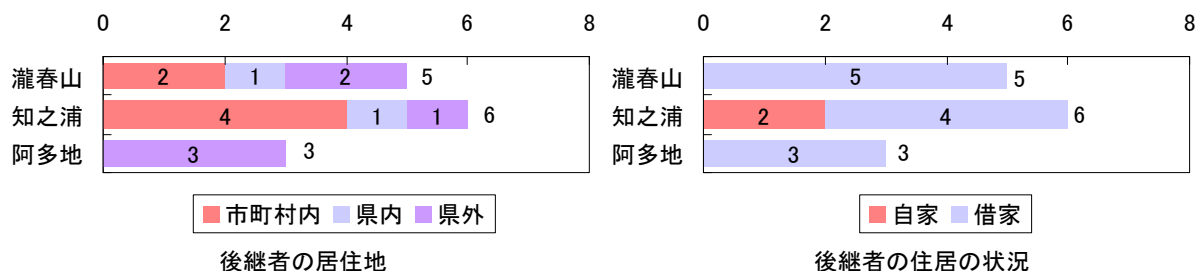


### 5.3.2. 後継者の居住地

各集落の後継者の居住地は、瀧春山集落では村内・外それぞれに分布し、知之浦集落では半分以上の後継者が町内に居住している。阿多地集落では、後継者の全てが県外に居住している状況となっている。

中山間地域に位置する瀧春山集落では、子どもの通学のために転居するケースがみられる。

また、離島にある知之浦集落と阿多地集落を比較すると、知之浦集落は本島の中心地である古仁屋集落に距離的に近く、後継者もその周辺に居住している傾向がみられる。

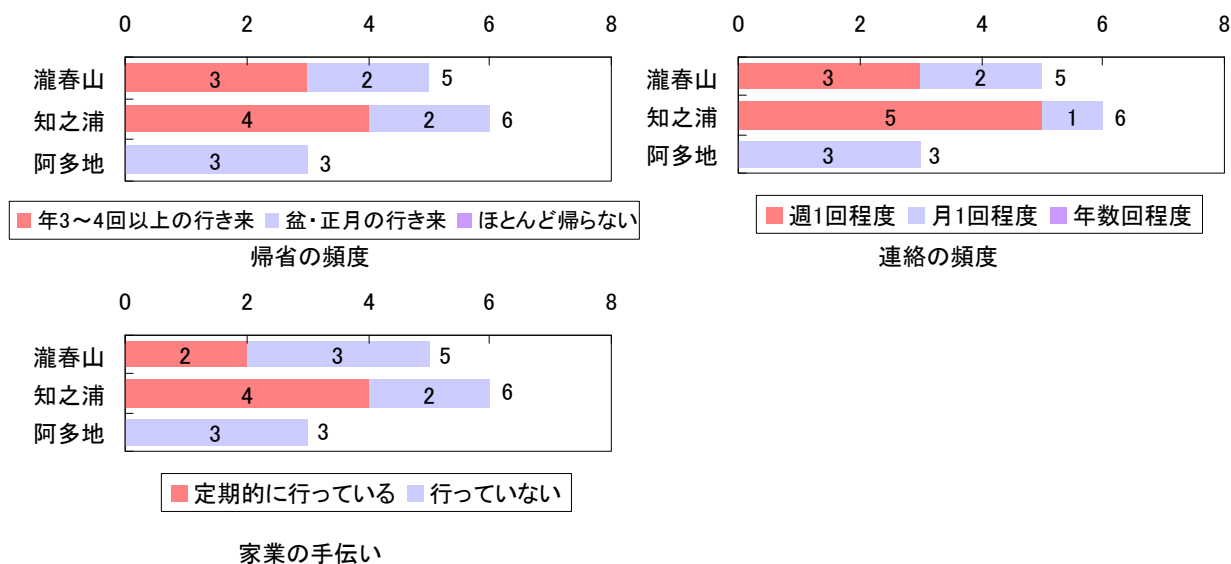


### 5.3.3. 帰省・連絡の状況

後継者の帰省の状況は、瀧春山集落や知之浦集落などの近くに居住している後継者が多い集落は、毎週または月に2~3回程度の頻繁な帰省が多い。逆に、どの集落においても遠方に居住している後継者は年に1度など、帰省の頻度は低くなっている。

連絡の状況は、月に1回以上は必ず連絡をしており、週に1回連絡している家庭も半数を占める。

家業の手伝いの状況は、近くに居住している後継者は定期的に家業の手伝いを行っているが、遠くに居住している後継者ではほとんど行っていない状況となっている。



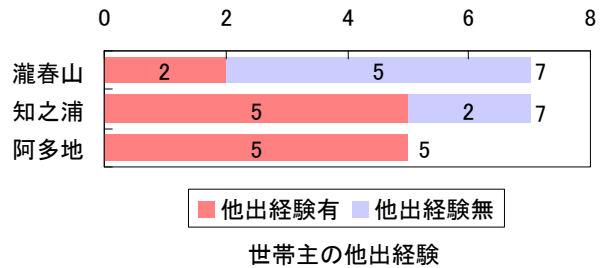
#### 5.4. 世帯主の他出経験

世帯主の他出経験は、中山間地域に位置する瀧春山集落では約70%にあたる5名の世帯主が他出経験はないと回答し、他出していた2名も他出先が日向と田川なので九州内に他出していたと推測される。

離島に位置する2集落においては、知之浦集落では約70%にあたる5名、阿多地集落では世帯主全員に他出経験がある。

また、知之浦集落・阿多地集落では半数以上が関東地方や関西地方といった遠方への他出経験となっている。

集落名	他出先	他出期間（年）
瀧春山	炭鉱	5～6
	日向	6
知之浦	大阪	3
	古仁屋	12
	大村市	3
	東京	5
	関西	20
阿多地	沖縄～大阪	45
	大阪	10
	大阪	1
	熊本	2
	名瀬	44



### 5.5. PC保有台数

回答者の内、PC保有者は3集落を通じて1世帯のみである。保有状況が少ないのは、ブロードバンドの未整備と回答者の多くが高年齢であることによると推測される。

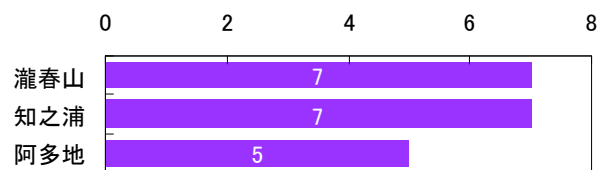
瀧春山集落：1台（1世帯）

知之浦集落：0台

阿多地集落：0台

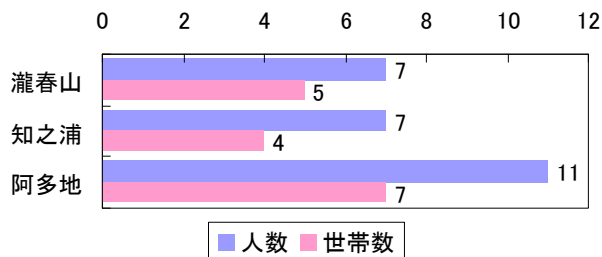
### 5.6. 災害時の避難状況

集落住民アンケートを実施したいずれの集落でも、回答者全員から、「避難しない、避難したことがない」との回答結果を得た。また、災害を想定した不安はあるが、「実際に災害が起きたことがない」、との意見が多数あり、3集落とも地形的に災害の確率が低い地域であると推測される。



### 5.7. WS参加意向

住民ワークショップへの参加意向については、瀧春山集落が5世帯7名、知之浦集落では4世帯7名、阿多地集落では7世帯11名が参加を希望していた。



## 5.8. 集落の共同活動の重要性

集落の共同活動の重要性について、「荒廃農地の維持管理」、「農作業の手間がえ・結い」、「集落共有の山林・牧野の共同作業」は、中山間地域である瀧春山集落、離島地域である知之浦集落、阿多地集落で低い傾向にあり、いずれの集落もあまり重要視していない。

「集落道の草刈などの共同作業」、「用水路の清掃などの共同作業」、「集会所・広場等の維持管理」などの集落の共有資産管理ではいずれの集落でも高い傾向にある。しかし、「神社・仏閣・墓地の維持管理」は、知之浦集落、阿多地集落では重要と考えられているが、瀧春山集落では2集落よりも重要性が低くなっている。

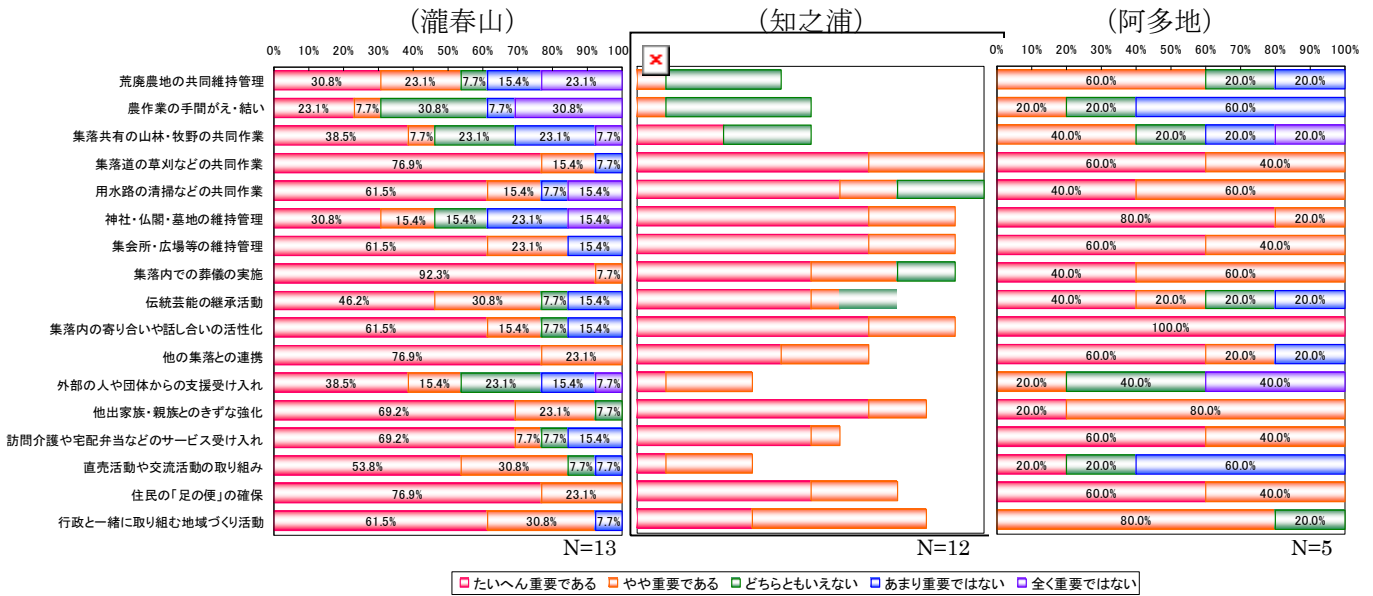
「集落内での葬儀の実施」や「伝統芸能の継承活動」などの冠婚葬祭に関わる活動では、特に「集落内での葬儀の実施」は高くなっている。「伝統芸能の継承活動」については、瀧春山集落では高い傾向にあるが、知之浦集落、阿多地集落ではやや低い傾向にある。

3集落を通じて、住民協同体制に関わる「集落内の寄り合いや話し合いの活性化」、「他の集落との連携」、「他出家族・親族とのきずな強化」、「行政と一緒に取り組む地域づくり活動」は重要性が高くなっている。しかし、3集落とも「外部の人や団体からの支援受け入れ」については重要性が低くなっている。

住民協同体制に関わる「集落内の寄り合いや話し合いの活性化」、「他の集落との連携」、「外部の人や団体からの支援受け入れ」、「他出家族・親族とのきずな強化」、「行政と一緒に取り組む地域づくり活動」では、「外部からの支援受け入れ」を除いて重要性が高くなっている。今後の集落支援策を検討していく上で、各集落とも「外部からの支援受け入れ」をあまり重要視しない理由が、外部との距離的な問題にあるのか、心理的な問題にあるのか、それとも全く別の要因にあるのか検討する必要がある。

生活支援の面では、「訪問介護や宅配弁当などのサービス受け入れ」、「直売所や交流活動の取り組み」、「住民の「足の便」の確保」の重要性が高いが、「直売活動や交流活動の取り組み」は、瀧春山集落の重要性は高いが、知之浦集落、阿多地集落での重要性は低い傾向となっている。これは離島という地理的な要因が原因と推測される。

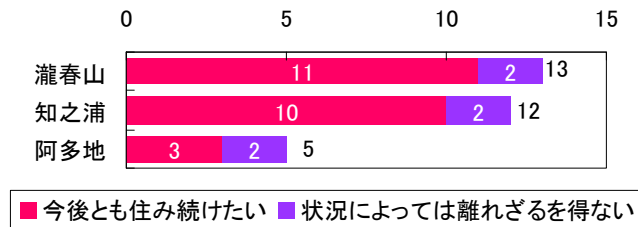




### 5.9. 居住継続意志

居住継続意志では、瀧春山集落と知之浦集落で「今後とも住み続けたい」との回答が高い割合を占めるが、阿多地集落では「状況によっては離れざるを得ない」との回答の割合が他の2集落よりも高い傾向となっている。周辺集落や中心集落への距離や移動の面で、阿多地集落が不利な条件にあることに関係していると考えられる。

同じ離島地域に位置する知之浦集落では、回答のその他記入欄に、町の中心地である古仁屋まで世帯毎に所有している船で移動できるので、不便には感じていないとの回答が見られる。



## 5.10. 居住継続上の不安要因

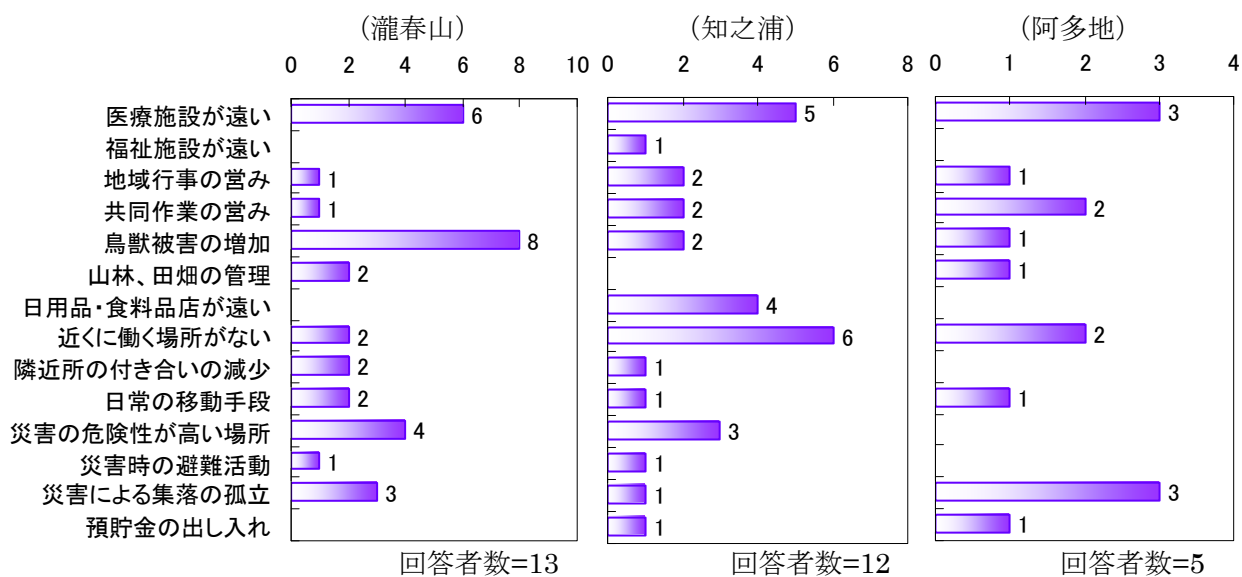
### 5.10.1. 居住継続上の不安を感じる要因上位3位

居住継続上不安を感じる要因上位3位の内、3集落に共通するのは「医療施設が遠い」ことである。

個別に見ると、瀧春山集落では、「鳥獣被害等の増加」、「医療施設が遠い」、「災害の危険性が高い場所」が上位3要因となっている。

知之浦集落では、「近くに働く場がない」、「医療施設が遠い」、「日用品・食料品の店が遠い」が上位3要因となっており、阿多地集落では「医療施設が遠い」、「災害による集落の孤立」、「共同作業の営み」、「近くに働く場がない」が上位3要因となっている。

離島地域に位置する両集落は離島のため、通勤できる範囲に職場が限られており、居住を継続する上で近隣に職場がない不安が大きいようである。



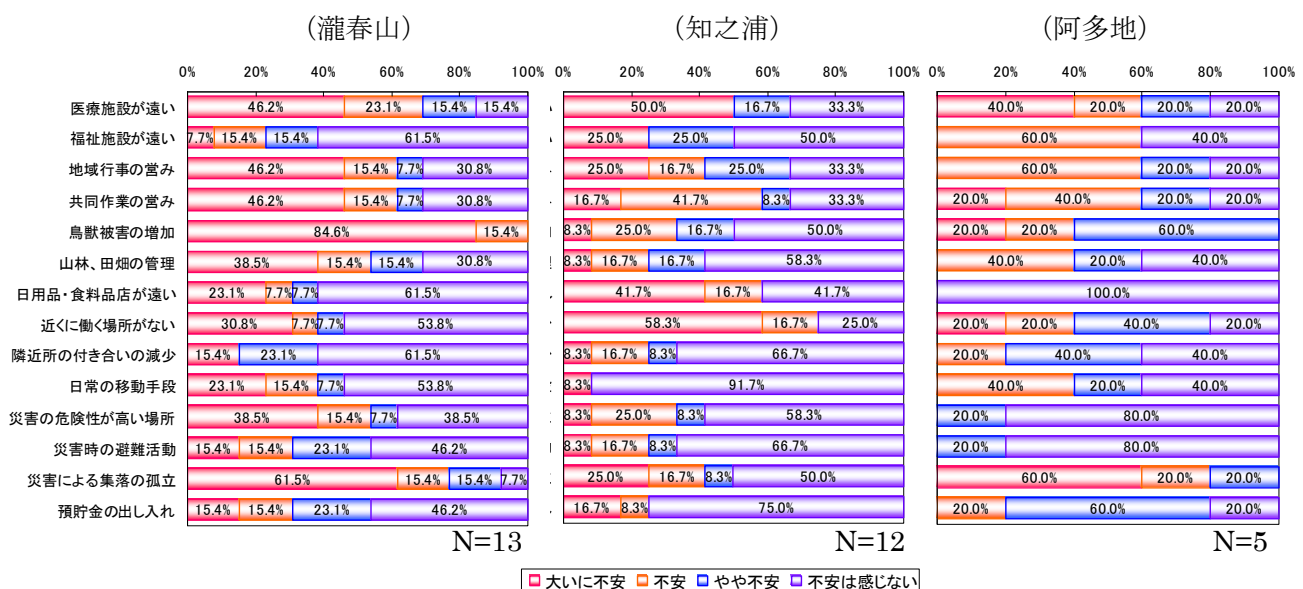
### 5.10.2. 居住継続上の不安を感じる要因

3 集落に共通し、半数以上が『大いに不安』『不安』と回答している要因は、「医療施設が遠い」、「共同作業の営み」となっている。

また、中山間地域に位置する瀧春山集落のみが、「鳥獣被害の増加」、「山林、田畑の管理」を半数以上が『大いに不安』『不安』と回答している。これは、高度経済成長期以前まで集落の生業が農林業中心であり、現在も農林業を営んでいる世帯が多いためと推測される。

知之浦集落と阿多地集落は同じ離島地域に位置するが、知之浦集落では約 60%が「日用品・食料品の店が遠い」ことを『大いに不安』『不安』と回答しているが、阿多地集落では全員が『不安は感じない』と回答している。逆に「災害による集落の孤立」では、阿多地集落の 80%が『大いに不安』『不安』と回答しているが、知之浦集落では約 40%だけが『大いに不安』『不安』と回答している。

なお、3 集落に共通し、半数以上が『やや不安』『不安を感じない』と回答している要因は、「隣近所の付き合いの減少」、「災害時の避難活動」、「日常の移動手段」、「預貯金の出し入れ」となっている。



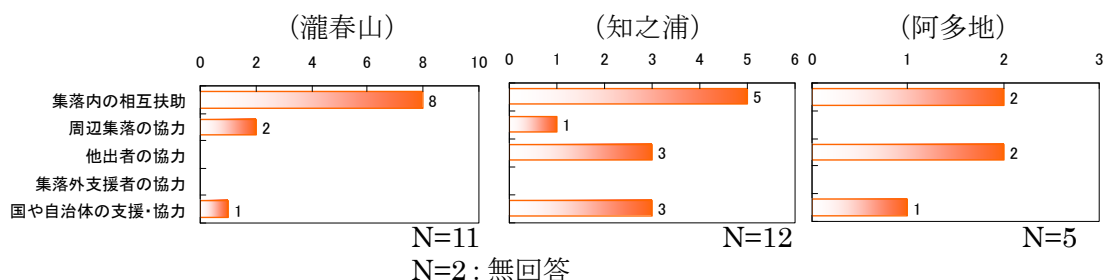
## 5.11. 居住継続上で必要な項目

### 5.11.1. 居住継続上最も必要な項目

居住継続上最も必要な項目の内、3 集落に共通しているのは「集落内の相互扶助」となっている。

また、知之浦集落では「他出者の協力」と「国や自治体の支援・協力」が「集落内の相互扶助」の次に多く、阿多地集落では「他出者の協力」が「集落内の相互扶助」と同数の回答となっており、離島地域に位置する両集落は居住継続上「他出者の協力」も望んでいることがわかる。

しかし、中山間地域に位置する瀧春山集落では、「周辺集落の協力」、が「集落内の相互扶助」の次に多くなっている。



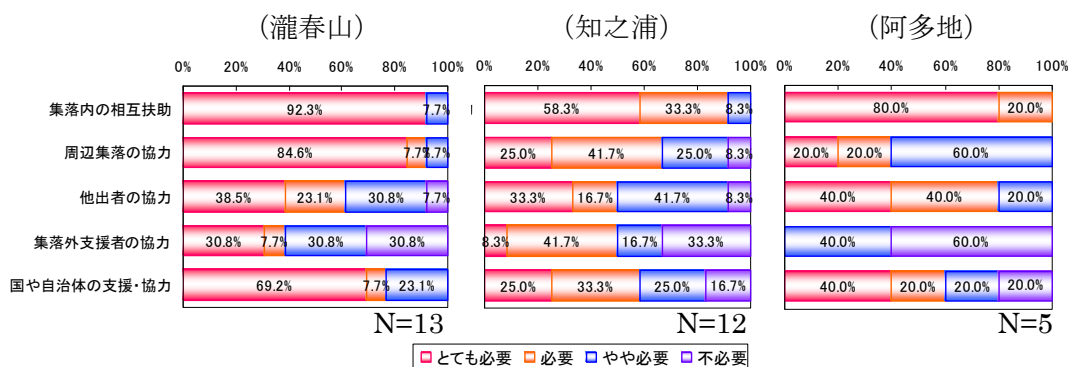
### 5.11.2. 居住継続上で必要な項目

3 集落に共通し、51%以上が『とても必要』『必要』と回答している居住継続上で必要な項目は、「集落内の相互扶助」、「国や自治体の支援・協力」となっている。

また、「他出者の協力」も瀧春山集落と阿多地集落では60%以上が『とても必要』『必要』と回答し、知之浦集落でも50%が『とても必要』『必要』と回答している。

逆に、集落によって回答が分かれた項目として「周辺集落の協力」があり、『とても必要』『必要』と回答している割合は瀧春山集落が約90%、知之浦集落が約67%であるが、阿多地集落では40%に止まっている。

さらに、「集落外支援者の協力」においては、『とても必要』『必要』と回答している割合は知之浦集落では50%であり、瀧春山集落が約40%であるが、阿多地集落においては0%となっている。



### 5.12. 他出家族との連絡

3 集落を比較すると、知之浦集落は他の 2 集落よりも他出者に連絡する割合が高い傾向にある。回答者の 50%以上が、「集落内の共同作業」、「集落内の冠婚葬祭」、「健康上の不安」、「災害の不安」、「集落行事」において他出者に連絡をとると回答している。同じ離島地域に属する阿多地集落では逆の傾向が見られる。

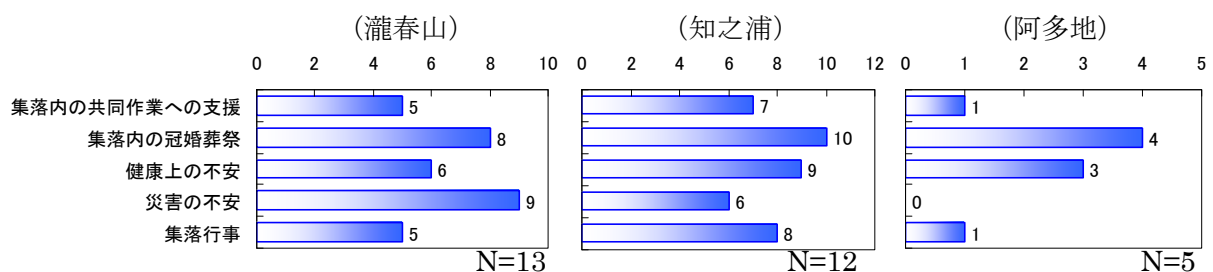
3 集落に共通した他出家族との連絡を取る状況は「集落内の冠婚葬祭」が多く、阿多地集落では 80%、瀧春山集落では約 61%、知之浦集落では約 83%が連絡を取ると回答している。

瀧春山集落では、「集落内の冠婚葬祭」、「災害の不安」に対して連絡する傾向がやや高くなっていたが、「集落内の共同作業」、「健康上の不安」、「集落行事」に対してはやや低い。

阿多地集落では、全体的に他出者との連絡が少ない傾向にあるが、「集落内の冠婚葬祭」、「健康上の不安」に対しては連絡する傾向が高くなっていった。

知之浦集落では、いずれの状況においても他出者への連絡を取ると回答する割合が高くなっていった。

	瀧春山	知之浦	阿多地
集落内の共同作業	38.5%	58.3%	20.0%
集落内の冠婚葬祭	61.5%	83.3%	80.0%
健康上の不安	46.2%	75.0%	60.0%
災害の不安	69.2%	50.0%	0.0%
集落行事	38.5%	66.7%	20.0%



### 5.13. 集落外からの訪問



	関係	居住地	訪問頻度
瀧春山 (n=8)	ヘルパー	松尾集落（椎葉村内）	2ヶ月に1回
	行政	上椎葉	月1回
	友人	椎葉村（松木、上福良）、多良木町、日向市、大野城市	
	老人会会長	松木集落（椎葉村内）	
知之浦 (n=2)	農協	上椎葉	月1回
	友人	瀬戸内町。	不定
阿多地 (n=2)	仕事の同僚	東京、大阪。	1回/年
	友人	名瀬（20組）。 名瀬市。	1～2回/年 2～3回/年

### 5.14. 資源

#### 5.14.1. 自然資源

	資源名称	特徴	
瀧春山 (n=7)	山桜	向かい側に100本程の眺望。	
	30m ぐらいの滝	日向椎葉湖に注ぐ支川。世に出したい。永江橋がかかっている。	
	山村の風景	季節に応じての山の姿。	
	杉、ヒノキ（山林）	天然の自然が残っている。	
	岩戸山の風景	秋の紅葉の風景。	
	滝川の流れ	昔の流れがきれいだった。	
		  	
	日向椎葉湖ダム	滝川の流れ	瀧春山集落の風景




	資源名称	特徴
知之浦 (n=3)	松の大木	マツクイムシの被害で2~3本しか残っていないが、残したい。松は10年前くらいから被害が出ている。
	海	
	 	
	知之浦集落の松の大木	知之浦集落に面する海

	資源名称	特徴
阿多地 (n=5)	阿多地の夕陽	絶景。
	ディゴ	
	海・浜	夏の海水浴は最高。
	台風高波の水柱	台風一過に見に行った。
	 	
	阿多地集落の海	阿多地集落のディゴ



### 5.14.2. その他資源

	資源名称	特徴
瀧春山 (n=5)	空き家	大きな百姓家。車。上椎葉の鶴富屋敷より屋材を使っていた。
	空き家	熊本の人が持っている。連絡が取れる。
	耕作放棄地	
	山村	竹やぶがある。


	資源名称	特徴
知之浦 (n=3)	空き家	三浦集落、俵集落。古仁屋等に他出して自分の家を管理している。お墓が集落にある。
	神社	都会に出て行った人が元気で健やかに生活できるように作ったもの。ここ7~8年で作った(寄付)。
	神社	島津時代からある神社。切腹した武士を祀っている。
		 <p>知之浦集落の神社と土俵</p>

	資源名称	特徴
阿多地 (n=2)	空き家	2軒
	耕作放棄地	
	Iターン者	2名


### 5.14.3. 自慢の料理


	料理の内容	食材
瀧春山 (n=9)	竹の子にしめ	タラの芽、ウド。
	イワタケ	コケ類、岩に生えている。酢の物、油炒め。
	おばあさんの味噌漬	昔はみそを手作りしていた。
	味噌漬	野菜。大根はほぼ1年中生産している。
	油みそ	油、鰹節、いりこ、ほんだし、ニラ。
	山菜	ゼンマイ、ワラビ、タケノコ。
	味噌汁、炒め物	タケノコ。
	川のり	のり。加工食品が多い。
	自作の芋の煮つけ	
	しいたけ	
	梅干	梅
	野菜	
	こんにやく	こんにやくイモから生産。加工食品多し。
	お茶（自然）	自然のもの。
		 
	<p>素材の梅の木</p> <p>瀧春山集落の無人販売所</p>	

	料理の内容	食材
知之浦 (n=8)	野菜炒め	自作の野菜。
	大根の漬物、煮物	自作の大根。
	魚等を薄塩に漬けて冷凍	イカ、アジ（夏）。味が良い。
	ボタン鍋	イノシシ。罾猟で獲る。毎年10頭程度。
	天麩羅	野菜、魚。
	タンカン	家庭用、他出家族用に栽培している。
	刺身、煮付け、唐揚げ	カツオ、マグロの一本釣り。
	マンゴー	家庭用に少々栽培している。
	ツワブキ	

	料理の内容	食材
阿多地 (n=4)	豚の煮しめ	黒豚
	味噌	味噌にカツオ、豚アバラを入れた料理
	ウツンフネ	豚肉
	島の手料理（野菜）	
	 <p>ウツンフネ</p>	

#### 5.14.4. 伝統芸能・特技・手技

	名称	特徴
瀧春山 (n=9)	つづら織	軽い竹かご風
	野菜づくり	ミニトマト、シイタケ、ハチミツ。子供や孫に伝えたい。
	石積み	手積み
	ひえつき節	2人(女)、1人(男)。保存会(尾八重)。
	こんにやく作り	
	的射	6年前より行われていない
	林業、農業の技術	農林業歴 60 年以上。農薬・肥料の時期など、子孫以外でも教えたい。
	山菜採り	
	林業	伐採技術、木工
	 	
	つづら織り	ひえつき節の碑

	名称	特徴
知之浦 (n=4)	8月踊り	4~5年前まで集落でやっていた。
	狩り、釣り、畑、大工、機械、電気	ご主人の技術。
	野菜作り	菜っ葉、ナス、ブロッコリー、大根。通年利用している。
	真珠の挿核	東京にいたときに習得した。
		
	真珠の養殖	

	名称	特徴
阿多地 (n=3)	8月踊り	地区別にある。
	豊年祭	
	盆踊り	記録を残したい（ビデオ撮影）

### 5.15. 元気づくりへの取り組み

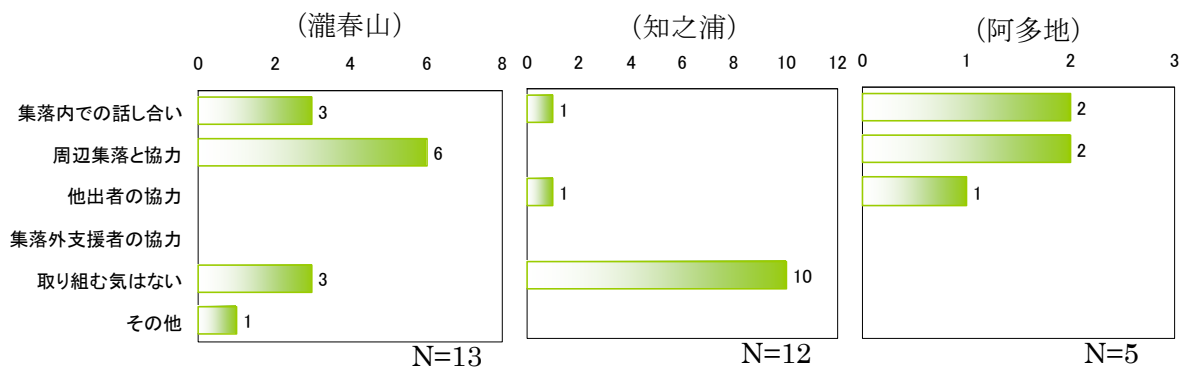
集落元気づくりへの取り組み状況・意向への回答は、阿多地集落では5人の回答者の内「集落内での話し合い」と「周辺集落と協力」をそれぞれ2人が選び、「他出者との協力」を1人が選んでおり、回答者全員に前向きな姿勢が伺える。

また、瀧春山集落においては13人の回答者の内、「集落内での話し合い」を3人、「周辺集落と協力」を6人が選び、約70%が取組に前向きとなっている。

しかし、知之浦集落では12人の回答者の内、「取り組む気は無い」を10人が選んでおり、約80%が取組に対して消極的な姿勢を示す結果となっている。

離島地域の2つの集落において、集落元気づくりへの取り組みに対して姿勢が分かれたのは、知之浦集落は後継者の多くが同じ町内に居住していることや、瀬戸内町の中心地である古仁屋に自家用船でアクセスが容易なため、集落自体を活性化しなくとも生活面にあまり不自由しないが、逆に阿多地集落は古仁屋へのアクセスが容易でなく、後継者が同じ町内に居住していないため、生活面において集落内を活性化する必要を強く感じているためと推測される。

	瀧春山	知之浦	阿多地
集落内での話し合い	23.1%	8.3%	40.0%
周辺集落と協力	46.2%	0.0%	40.0%
他出者の協力	0.0%	8.3%	20.0%
集落外支援者の協力	0.0%	0.0%	0.0%
取り組む気はない	23.1%	83.3%	0.0%
その他	7.7%	0.0%	0.0%



### 5.16. 取り組み内容

	内容
瀧 春 山	無人販売への意欲。考えることで意欲が出てくる。20年間続けている。(80代男性)
	空き家の活用。ただ、都会の人が集落に住むことは難しいと思う。(70代男性)
	岩場を利用して、ミツバチのえさになる花木(モモの木、ヤブバチ→四季を通した花が咲く)を植えて景観を良くする。(60代男性)
	集落の近くにある滝は観光名所になると思う。(80代男性)
	老人会による桜の植樹。(70代男性)
	若い人たちに取り組みをして盛り上げてほしい。野菜づくり、くりひろい、山菜採りなどが出来る。無人販売所は平成元年10月2日スタートした。(70代女性)
	昔やっていた春祭り(花見)をもう一度やりたい。(40代女性)
	共同作業(草刈等)の維持していきたい。(20代男性)
	<p>&lt;集落元気づくりの可能性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 20年前から無人販売所を運営させるなど、集落の自然資源や食材の活用。</li> <li>◆ 周辺集落と協力して都市住民にとって魅力ある資源・料理の開発、交流先となる都市の設定。</li> </ul>

	内容
知 之 浦	以前は豊年祭の行事をしていたが、今では高齢化が進み困難。今では高齢者に弁当を配る程度になっている。他出された人と共同で何かをする機会があればやってもよいのではないかと思う。田崎真珠がH19に終わる。以前は真珠の質が良かった。古仁屋在住の場長が現在、知之浦集落で養殖している。今では知之浦から1人のみアルバイトとして働いている。(50代男性)
	体調にもよるが、集落の行事には出来るだけ参加したい。(80代男性)
	昔から海や山が近く、生活しやすかったが、今は体が動かないので年金に頼らざるを得ない。山と海の資源は昔のままなので、若い世代で活用できる人がいれば受け入れなどを考えられるのではないか。昔は山の薪を焚いて、魚を釣って生活していた。余りは売って生活できた。(80代男性)
	集落内の掃除等に積極的に参加している。仕事場等が増加すると良いと思う。(60代女性)
	高齢者が多いので、月1回でも島唄やカラオケがしたいが出来ない。(60代女性)
	8月踊りなどの行事を他出者を呼んでやりたい。(30代男性)
	<p>&lt;集落元気づくりの可能性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 既存の他出者組織と連携し、集落の外から集落居住者を支援する形の集落元気づくり。</li> <li>◆ 真珠の挿核技術による、集落固有の産品としての真珠加工品を、新たな集落産品として開発・販売。</li> </ul>



	内容
阿多地	出身者で清掃活動及びバーベキュー。センターを利用した宿泊は取り合い状態となっている。宿泊料金は気持ち分だけ納めている。(80代男性)
	加計呂麻全体の島民のための取り組みをしたい。自然の中で働ける環境があると良い。但し、結いの意識が必要。(50代男性)
	<p>&lt;集落元気づくりの可能性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>綺麗な海を求めてやってくるIターン者の受け入れや、集会所(センター)を利用した、Iターン希望者を短期で受け入れるプログラムの実施。</li> </ul>

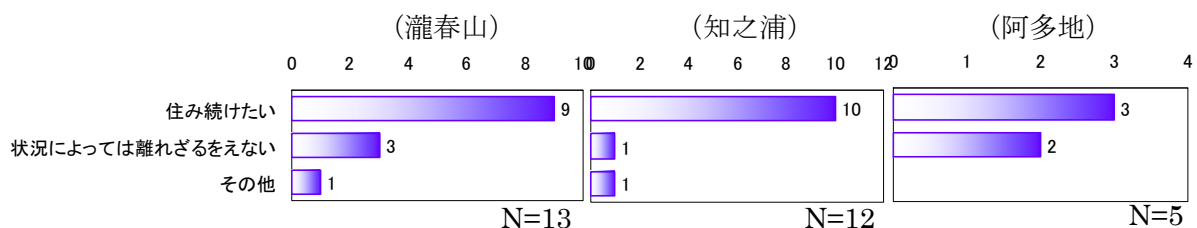
### 5.17. 取り組み後の居住継続意志

集落元気づくりへの取り組み後の居住継続意志は、瀧春山集落においては12人の回答者の内、「住み続けたい」を75%である9人が選んでいる。

知之浦集落では12人の回答者の内、「住み続けたい」を約83%である10人が選んでいるが、阿多地集落では5人の回答者の内「住み続けたい」を60%である3人が選び、残りの40%である2人は「状況によっては離れざるをえない」を選んでいる。

先に11.元気づくりへの取り組みで見たように、離島地域の2つの集落において、集落元気づくりへの取り組み意欲の点は阿多地集落の方が高かったが、取り組み後の居留意思の点では知之浦集落の方が高いのは、知之浦集落の方が瀬戸内町の中心地である古仁屋へのアクセスが容易なためと推測される。

	瀧春山	知之浦	阿多地
住み続けたい	69.2%	83.3%	60.0%
状況によっては離れざるをえない	23.1%	8.3%	40.0%
取組に関係なく集落を離れるつもりである	0.0%	0.0%	0.0%
その他	7.7%	8.3%	0.0%



#### 5.18. 住民アンケートから見た集落元気づくりの可能性

瀧春山集落は 20 年前から無人販売所を運営させるなど、集落の自然資源や食材を活用してきている。「今後とも住みたい」の住民が約 85%を占め、後継者の 40%が同じ村内に居住していることから、後継者と住民が協力して都市居住者にとって魅力ある集落をつくり、都市交流を中心とする集落元気づくりを行える可能性があると考え。そのためには、他出者の参加を前提とした集落元気づくりを都市と行い、集落間のアクセス短縮による効果や、都市住民にとって魅力ある資源・料理の開発、交流先となる都市の設定等を検討していく必要がある。

知之浦集落は離島に位置しながら後継者の約 65%が同じ町内に居住し、頻繁な帰省行動がみられることから、後継者が伝統芸能の開催に当たっては帰郷する等、他出した後継者と集落との結びつきが強い。しかし集落居住者は集落元気づくりへの取り組みにあまり前向きではない結果となった。そこで、既存の他出者組織と連携し、集落の外から集落居住者を支援する形の集落元気づくりの可能性が考えられる。また、真珠の挿核技術を持つ住民を有していることから、集落固有の産品としての真珠加工品を、新たな集落産品として開発・販売できる可能性もある。

阿多地集落は後継者が町外に居住しているため、集落外から集落居住者を支援するのは難しいが、集落居住者は集落元気づくりへの取り組みには意欲的である。また、外洋に面しているため海がきれいであり、自然環境に惹かれた I ターン者が 2 世帯居住しているほか、夏には、安価で宿泊できる集落の集会所（センター）の予約も他出者の帰省で一杯になる。そこで、阿多地集落では綺麗な海を求めてやってくる I ターン者の受け入れや、都市へのネットワークと集会所（センター）を利用した、I ターン希望者を短期で受け入れるプログラムを実施するなど集落元気づくりへの取り組みが考えられる。